

# 筑後広域公園フィットネスエリアの一部供用について

南筑支部 南筑後県土整備事務所 都市施設整備課 野田 徹

## 1 はじめに

筑後広域公園は筑後地区のほぼ中央に位置し、筑後市とみやま市にまたがり、九州新幹線「筑後船小屋駅」を中心に東西約4kmにわたって都市計画決定されています。

「筑後広域公園」の総面積は、大濠公園の約5倍の広さとなる197.2haで、よく比較対象として出てくる東京ドーム(約4.7ha)と比較すると、約42倍と広大な敷地ということが伺えます。

令和2年12月末現在では87.1haを供用しており、県内で最も広い県営公園で、

一級河川矢部川や中ノ島の豊かな自然環境を包み込むように整備される公園は、「豊かさを体感できる公園」をメインテーマに、「自然」「文化」「生活」「健康」「交流」を基本理念として、公園内は「スポーツゾーン」「文化体験ゾーン」「交流ゾーン」「環境保全・学習ゾーン」と位置づけられた整備を行っています。

今回ご紹介するフィットネスエリアについては、この中でも公園西側に位置する「スポーツゾーン」の一部で、緑豊かな環境のもと、訪れる人たちがのびのびと運動を楽しみ、ウォーキングや散策など、様々な健康づくりを行うことができるとして整備を進めています。

筑後広域公園 全体計画平面図



## 2 フィットネスエリアの整備・進捗状況

フィットネスエリアは筑後広域公園の西側、一級河川矢部川の南に位置し、平成29年から整備を実施しています。

エリア整備内容については、芝生広場、遊具広場、屋根付大広場、球技場、スケートボード場等を計画しており、令和2年10月18日には、エリア東側の球技場及びスケートボード場の供用を開始したところです。

引き続き、令和4年度中に全体の完成を目指して、整備を行っていきます。



## 3 フィットネスエリアの供用部分のご紹介

フィットネスエリアについては、令和2年10月18日に、球技場およびスケートボード場の供用を開始しました。

球技場は、全面人工芝で約1万2千m<sup>2</sup>の広さがあり、主にサッカー(ジュニアサッカーは2面)、ラグビーに利用出来、また、グラウンド東側には、400人以上(240名×2=480名)収容できる観覧席を備えており、大きな大会も開催できる施設として整備しています。

球技場の南側に位置するスケートボード場は、面積は約1千100m<sup>2</sup>で、スケートボード等をプレイするための、「セクション」と呼ばれる人工構造物が、大小9つ設置されており、スケートボード、インラインスケートが楽しめる施設となっております。

スケートボード場は県内において、大小併せて11箇所のスケートボード場ありますが、県南地域においては、近くに利用できる施設があまり無かった為、供用して令和3年1月末時点で、利用者数は、球技場が10,069人、スケートボード場が2,668人と多数の県内外

の方からご利用いただきました。

新しい人工芝のグラウンドと、既存スポーツエリアのグラウンドを利用すれば、大きな大会の開催も可能ですし、スケートボード場は、初心者から上級者まで楽しめるよう施設配置を行い整備しておりますので、興味がある方は是非一度お越しください。

令和2年10月18日供用範囲



人工芝グラウンド

スケートボード場

スケートボード場全体

